

逢甲大学 許芳榮 (Hsu, Fang-Rong)

逢甲大学では、キャンパスの IT 化(“e-Campus” ビジョン)の一環として、ハードウェアはもとより、e ラーニングから大学事務にいたるまでのアプリケーションを含めた、徹底的な IT インフラの整備を実現してきた。また、2000 年には、インテルとの共同研究により、広範囲にわたる学内の無線 LAN が整備され、以来、“Unwired University” を目指した取り組みが積極的に行われている。近い将来においてはこれからの研究活動の鍵となる、データ・ウェアハウスの整備および、無線 LAN のローミングなど、学内インフラの充実をさらに推進する計画である。

許教授は、逢甲大学におけるこうした取り組みの中心となって活動してきた。逢甲大学の教授に就任する以前は、台中健康管理学院にて情報工学学部長、静宜大学の情報ネットワークセンター長などを歴任し、逢甲大学での取り組みはこうしたバックグラウンドをフルに活かした活動といえよう。

1. 無線 LAN 導入の背景

近年、台湾においても地方の大学における学生の獲得競争は一段と厳しいものとなってきている。様々な大学が優秀な学生を獲得するために躍起になる中、逢甲大学の教授陣は、今後増加するであろう、既にコンピューターのリタラシーを十分に持った学生でも満足できるよう、ハードウェア、ソフトウェアを含めた大学のインフラを強化することが必要であり、それが大学がより優秀な学生を集めることにつながる、と考えたのである。

逢甲大学は、そのキャンパスにおいて「いつでも、どこでも、誰でも、広い用途に」対応できるシステム作りを目指してきた。2000 年に始まった無線 LAN の環境整備は、そのシステムを支えるバックボーンとなったのである。



